

「読み」と「表現」との関連を意図した単元構想の工夫

福山市立手城小学校 川本忠司

1 実践の趣旨

PISA 調査において日本の子どもたちの読解力の低下傾向が指摘されて以来、様々な取り組みが工夫され提案されてきている。

しかし、私のこれまでの授業では、目的意識や相手意識もないままに文章の内容価値や正解とされる「読み」だけを強調した学習を展開し、習得した読むことの力を活用して文章に対する「表現」との関連がなされてはいなかった。そのことが読解力を低下させていると考えた。

読解力について筑波大学附属小学校二瓶弘行(2008)は、「読解力には、文章・作品を正確に読み取る力と文章・作品に対する感想・批評を形成する力の両面があることを重視する必要がある。」と述べている。

そこで、本実践では、単なる読み取りだけの授業ではなく、習得した「読み」の力(単元におけるつきたい力)を活用し、表現させていくことで読解力を高めていくことをねらいに置いた。

そのために、まず、学習目標(国語科におけるつきたい力)を達成させるための手立てとなる言語活動の目標として、また、児童に学習に対する目的意識を持たせる学習のゴールとして活動目標を設定した。次に、児童が文章の内容を正しく理解した上でさらに自分の考えをもち、その考えを書く活動を通して自己表現させていく単元を構想し、本実践に取り組んだ。

2 実践の概要

(1) 単元名 生まれ変わるならロボット・人間どっちがいいですか？

ー根拠をもとに自分の考えをまとめようー

教材「生き物はつながりの中に」(光村図書6年上) 中村桂子 文

(2) 単元の目標

具体的事例と筆者の主張を関連づけながら自分の考えをもつことができる。

(3) 手立て

①「生まれ変わるならロボット・人間どっちがいいですか？ー根拠をもとに自分の考えをまとめようー」と設定し、学習に対する目的意識をもたせる。

②文章を正確に読み取らせるために、まず、この文章の筆者の主張、文章の構成を段落相互の関係から児童につかませる。そして、生き物の特徴をもとに筆者の主張に対する自分の考え(生まれ変わるならロボット・人間どちらにするか児童一人一人の立場)をもたせ、その根拠を叙述にある具体的な事例をもとに読みを深めさせていく。

③文章に対する感想・批評を形成していくために、筆者の主張に対しての自分の意見をまとめさせていく。その意見も「感想」といったレベルで止まらずに、生まれ変わるならロボット・人間どちらにするか児童が決めた立場の根拠を明確にした意見文にし、自分の論理を組み立てて表現することができる活動を仕組んでいく。

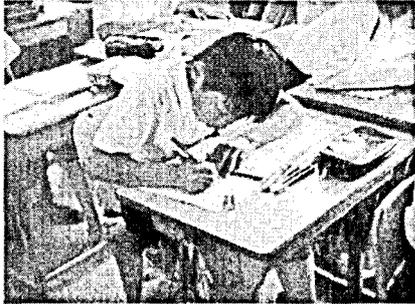
(4) 指導の実際(全10時間)

1次(1時間)	「生まれ変わるなら人間か？ロボットか？」最初の自分の考えをもつ。
2次(5時間)	全文を読み、付箋紙に生き物・ロボットについて分かったことを書きだす。 筆者の主張をつかむ。 文章の構成をつかむ。 生き物の特徴をつかみ、自分が意見する立場の根拠について読み取る。
3次(3時間)	「人間か？ロボットか？」の立場をはっきりさせた意見文を書く。
4次(1時間)	お互いの考えを交流する。

(5) 授業の様子

「文章・作品を正確に読み取る力」 (読み)

① 「生まれ変わるなら人間か？ ロボットか？」 最初の自分の考えをもつ。



「生まれ変わるならロボット・人間のどちらがいいですか？」 についての最初の自分の考えを書かせていった。結果は人間の立場が32人、ロボットの立場が8人となった。子どもたちは、それぞれの立場で、その立場を選択した理由をよく考えることができていた。

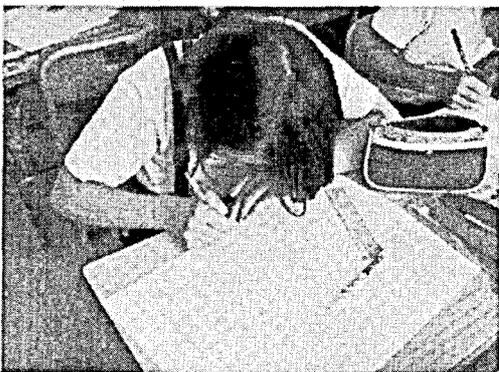
【児童が書いたワークシートより抜粋】

人間の立場を答えた理由	ロボットの立場を答えた理由
<ul style="list-style-type: none"> ・ 友達や家族がいる。 ・ 味が分かる。 ・ 死ぬときには自分とつながりのある人が泣いてくれる。 ・ 寿命がある (死ぬことができる)。 ・ 成長する。 ・ 自分の意志をもつ。 ・ 感情がある。 ・ 子孫を残すことができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 病気にかからない。 ・ 好き嫌いがなくなる。 ・ 永久に死なない。 ・ 年をとらない。 ・ 姿が変わることはない。 ・ 成長しない。 ・ ずっとそのままの姿。

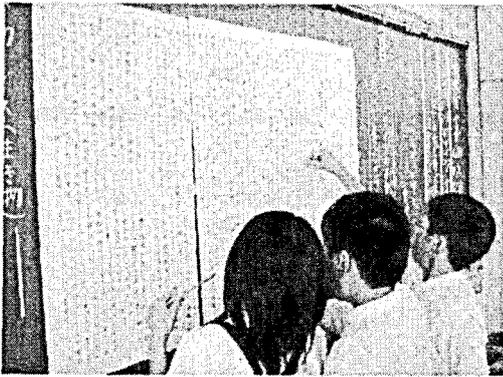
② 全文を読み聞かせる。(作品との出会い)

全文を読み聞かせていった。子どもたちには、ただ読み聞かせるのではなくて、生き物について書かれているところにはーを、ロボットについて書かれているところには～を引きながら読むように指示をした。読む必然性を持たせることにより、より集中して聞くことができていた。

(7) 付箋紙に生き物・ロボットについて分かったことを書きだす。(情報の取り出し)



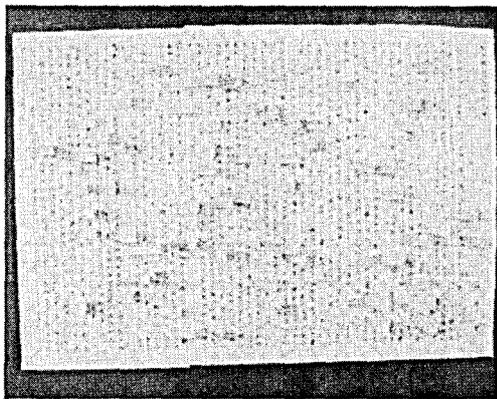
生き物・ロボットについての違いを自ら進んで読ませていくために、生き物については赤の付箋紙を、ロボットについては青の付箋紙を使い、それぞれについて分かったことを書かせていった。(情報の取り出し) 子どもたちが、とても意欲的に付箋紙を書いている姿が見られた。



次に、個々に書いた付箋紙を板書用の本文に貼らせていった。貼らせる場所は、自分を取り出した情報が書かれている本文の上に貼らせていった。友達と同じ所を取り出した付箋紙については、貼っている付箋紙の上に重ねて貼らせていった。これにより、子どもたちの読みでひっかかった箇所が見えてきた。

子どもたちの様子としては、たくさん自分の付箋紙を貼ろうと意欲的に文章を読み、活動していた。また、自分しかまだ貼っていない所があったら「まだ私しかここに気づいていない。」とうれしそうだった。文章を読む必然性がある活動は、子どもたちの集中力が確かに違うのを感じた。

(4) 筆者が生き物・ロボットのどちらの視点で作品を書いているかを考える。



生き物については赤の付箋紙を、ロボットについては青の付箋紙を使い、それぞれについて分かったことを書かせ、その後その付箋紙を貼らせていった後の板書用の本文である。

この板書用の本文から、筆者はどちらの視点で作品を書いているのか考えさせていった。明らかに赤の付箋紙が多いことから、子どもたちは、その答えをしっかりとつかんでいるようだった。

③筆者の主張をつかむ

説明文を読んだときにまず分かっている状態にするために、「生き物はつながりの中に」は意見文であるから、筆者の意見・主張をとらえることが大事だと考えた。

(7) 書かれている形式段落を考えさせる。(自己内対話→ペア対話)



まず自己内対話で筆者の主張が書かれている形式段落を考えさせていった。その時に助言として、事実（筆者が分かったこと・具体的な例）と筆者の考えとを区別することを話した。

子どもたちからでてきた意見として、7段落・8段落とに分かれた。7段落ではなく8段落になった理由として、7段落の文中に「～さまざまつながりの中で生きることが分かりました。」と書かれているので、ここは筆者が分かったこと、つまり事実であるという意見が出た。その子の意見から7段落ではなく8段落に筆者の考えがあることにみんな納得した。

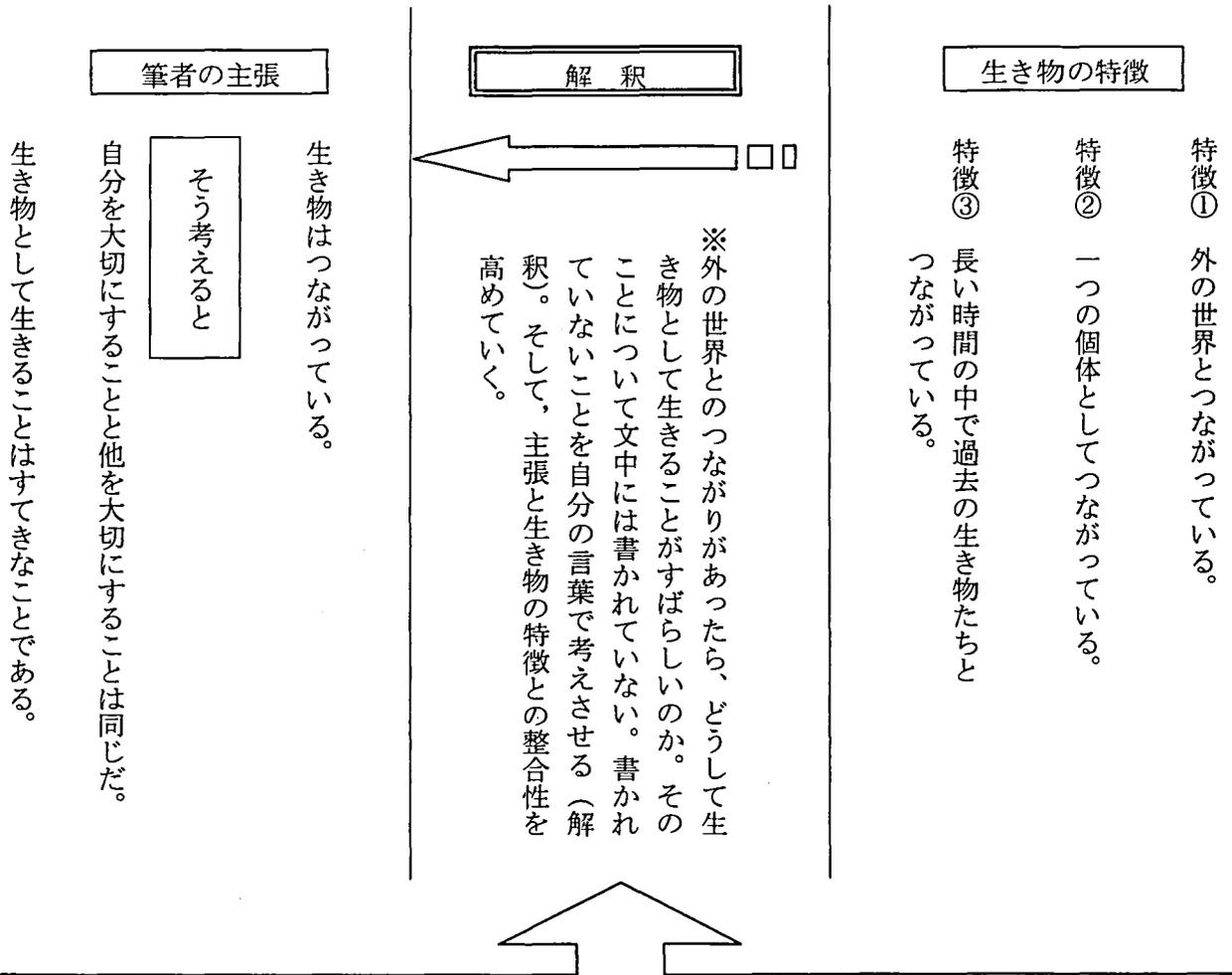
(4) 8段落のどの文章が筆者の一番読者に伝えたいことが書かれているのか読み取らせる。

8段落が7つの文章からできていることをつかませた後で、どの文章が筆者の主張にあたるかを考えさせていった。

(自己内対話→ペア対話→全体対話)

③文中に書かれていないことを解釈する。

文中から情報を取り出しただけで終わらせるのではなくて、自分の言葉で考える（解釈）展開を仕組んでいった。



児童一人一人に事例からみた筆者の主張が納得いくのかどうか考えさせていった。そして、3つの生き物の特徴が筆者の主張につながるように解釈させていった。

- C 1 : 特徴①から自分と他は全てつながっているから、私は、自分を大切にすることと他を大切にすることは同じだと思う。例えば魚を大切に育てたとする。するとその魚は、いつか大きくなって私たちに食べられる。すると、その魚を大切にしたら分だけ、自分の体の一部になる。だから、自分を大切にすることと他を大切にすることは同じだと考える。
- C 2 : 特徴②から、ぼくは、生き物として生きることはすてきなことだと思う。理由は、自分がこの世で一つの個体として、努力したり、思い出を作ったり、成長したりして進化できるからだ。
- C 3 : 特徴③から、私は、生き物として生きることはすてきなことだと思います。理由は、おじいさん、おばあさんが両親を産んで、その両親が自分を産んでくれたから、今の私が存在するからです。
- C 4 : 特徴③から、ぼくは、生き物として生きることはすてきなことだと思います。理由は、何千、何万、何億もある卵の中から一つだけ選ばれてきたのだから、僕自身が生まれてきたこと自体が奇跡だと思うからです。祖先も同じように生まれてきました。祖先と自分は血のつながりがあります。祖先の一人でも欠けていると今の自分もありません。

「文章・作品に対する感想・批評を形成する力」 (表現)

①「人間か？ロボットか？」の立場をはっきりさせた意見文を書く。

本文の学習を終えた後で、生まれ変わるならロボット・人間どちらを選択するかについて、自分の主張につながる根拠をもとに意見文を書かせていった。第1次では生き物の立場に立つ児童が32人だったのが35人になり、ロボットの立場の児童が8人から5人へと減った。

以下がそれぞれの視点の児童の意見文である

【人間の立場】※主張につながる具体例を人間とロボットとを対比させながら意見文を書いている。

「幸せな存在」

私は生まれ変わるとしたら人間とロボットでは人間の方がいいです。人間とロボットとの違いを考えながら、その理由を述べていきます。

まず、一つめの理由は、自分がたった一つの存在だからです。この世には自分が二人いるわけではありません。自分という存在は一つしかありません。そう考えると、自分という存在がなくなってしまうたら一つしかない大切な存在が消えてしまいます。しかし、ロボットは何度でも同じ形や機能をもった物を作り出せるので、いくつも同じ物が存在します。すると一体が消えてもあまり変わらないと思います。

次に、二つめの理由は、努力をすることができるところからです。人間は誰でも絶対に苦手なところがあります。人間は、その苦手なところをなくそうと努力します。努力を積み重ねていくと、必ずその苦手なところが少しずつなくなっていくと考えられます。そして、その努力している姿が輝いていると思いませんか。それに対してロボットは、完璧すぎて直すところがない物もありません。そのロボットは、新しいことを学ぶこともなく努力することもなく、ずっと決められた考えの中で生きていくことになると思います。だから、努力をしているときの輝きがいまになります。

私は、これらの理由から生まれ変わるとしたら人間の方がいいです。人間は一人一人が一つしかない存在であり、努力して新しいことも学ぶことができたり、苦手なところを直したりすることができず。

これらのことから、生き物として生きていくことは、幸せだと思います。

【ロボットの立場】

※その児童自身が抱えている思いや生き方をありのままロボットの立場として書いている。

「生まれ変われたら」

ぼくは、生まれかわれるとしたら人間とロボットではロボットのほうがいいです。これから、人間とロボットとの違いを考えながら、その理由を述べていきます。

まず一つ目は、人間には「つらい」「うれしい」「苦しい」「悲しい」などの感情があります。しかしロボットには感情がありません。だから、ロボットはつらい時や苦しい時は何も感じることもや考えることはありません。

次に二つ目は、ロボットには、だれともつながりがないということなんです。だから誰ともかわらないで一人で生きていくことができます。

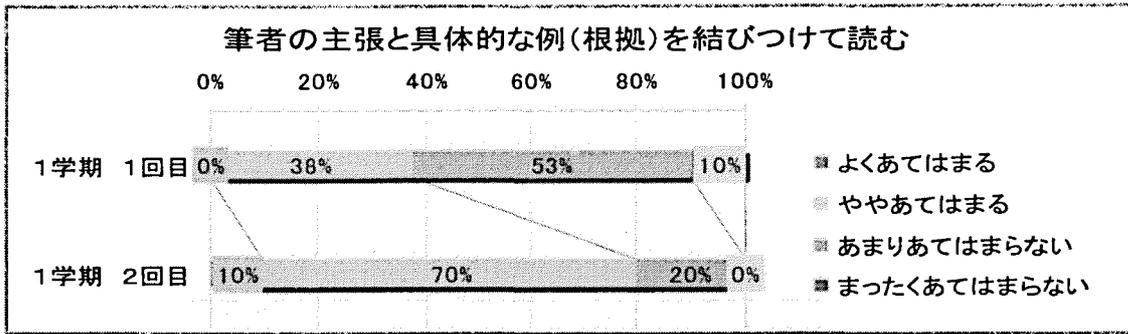
この二つの理由から、生まれ変わるとしたら人間とロボットではロボットの方がいいです。

ぼくは、五年生の時につらい思い、苦しい思いをしてきたので、もうそんなことを感じたり、考えたりしたくはないです。

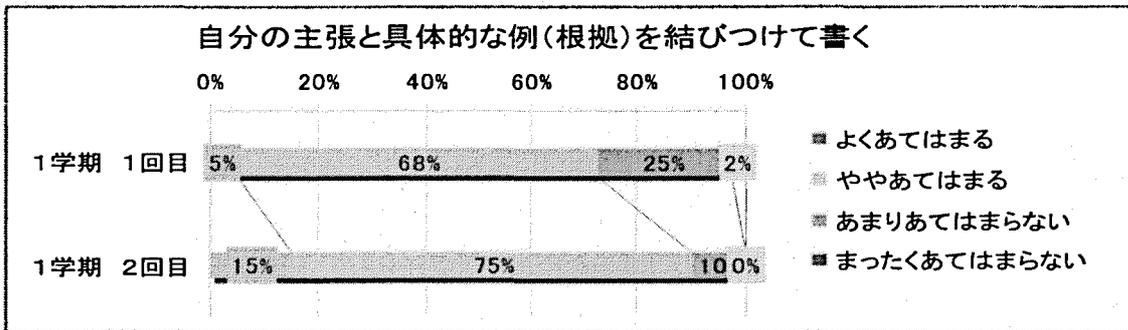
②お互いの考えを交流する。

まずは、クラスの中での交流を行った。その中で人間とロボットの視点それぞれのクラス代表を選出した。そして学年間での交流を行っていった。内容はクラスの代表者が他の学級をまわっていくようにした。交流会では、代表者の意見文を聞き、主張につながる根拠について子ども同士で評価し合った。代表者は各クラスで学んできたという自負をもっていたため、質問がきても意欲的に答えようとする姿が見られた。

3 成果と課題



- 学習前, 学習後の児童の意識調査を集計すると児童の肯定的評価が 38%から 80%に上がった。この結果から, 活動目標が児童の学習に対して目的意識をもたせ, 言語活動の中に学習が成立していたと考える。



- 学習前, 学習後の児童の意識調査を集計すると児童の肯定的評価が 73%から 90%に上がった。
- 4人の児童が意見文を書くことができなかった。その原因は, 文章を正確に読み取る技能の習得ができていても, 自分の考えを相手に説得させる具体的事例を論理立てて文章を構成することができなかったためであると考え。

テスト名	全国平均	クラス平均
単元末テスト	82点	95点
チャレンジテスト	78点	85点

- 単元末テスト, 児童が新しく出会う文章で行ったチャレンジテストにおいて全国平均・期待得点を上まわることができた。この結果から, つけたい力に対する肯定的評価の意識だけでなく, 児童の文章を正確に読み取る力も向上していることが分かる。
- 「主張と根拠とのつながりの整合性についての児童の意識が弱かったと考える。筆者の主張と具体例との関係に整合性があったのかどうかをつかませうと, 3つの生き物の特徴から主張につながる具体を考えていくような学習展開にすると主張に意識が向いた意見がでてきたと考える。
- 「生まれ変わるならロボット・人間どっちがいいですか」という投げかけは, 生き物の特徴をつかみ, 自分が意見する立場の根拠について読み取る時間ではせずに, 第3次で出した方がよかった。筆者の主張に対して生き物の特徴が書かれているが, 果たしてその特徴が適切なのかどうかどうなのかということを考えさせていく方が子どもの意見が焦点化してくる。

【引用文献】

難波博孝(2007) : 『PISA 型読解力にも対応できる 文学体験と対話による国語科授業作り』

明治図書 p.17

二瓶弘行(2008) : 『すべての子どもたちと「読解力と表現力」をともに育む国語授業

東洋館出版社 p.6